

種

四年

画数 14
筆順 禾 稂 種
オン シユ
ツシ たね

成り立ち



「重い」という意味を表した「重」と、「稲」の形を表した「禾」とを組み合わせて作った字です。

取れた稲の中で、一番よく実っていて「重い」つぶをえらんで「たね」にしますので、「重い稲」という意味の「種」という字で「たね」を表しました。りっぱな種からはりっぱな実がたくさん実りますから、よく実った「重い」ものをえらぶのです。

また、一つの種から、それと同じものがたくさん取れますので、「種」は「同じもの」「なかま」の意味に使われるようになりました。例種類、種族。

使い方

▽種の中には、たくさんのお実がつまっています。あんな小さな種から、植物が成長して、たくさんの実をつけるのは、ふしぎな気がします。

▽運動会の種目の中では、ぼくは騎馬戦が一番好きです。

熟語例

▽種類(同じ性質をもったもののなかま。「種類別に分けた果物」などというふうに、つかいます。)

▽種族(人類を、血統や言葉などで分けた場合、同じなかまに属しているもの。また、人類に限らず、同じなかまに属するものごとと同種族といいます。「オオカミと犬は、もともと同種族の動物だった」などというふうに、つかいます。)

▽人種(人類の種類。人類を、骨格や皮膚の色などで分けた人類の種類のことです。「人種によって、差別をしてはならない」などというふうに、つかいます。)

▽雑種(種類がまじっていること。「うちの犬は雑種です」などというふうに、つかいます。)

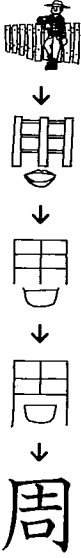
▽種目(種類によって分けた項目)

周

四年

画数 8
筆順 冂 冂 冂 冂
オン シユウ
ツシ まわり

成り立ち



「用いる」という意味の「用(年238)」と「口」とを組み合わせて作った字で、「口を用いる」という意味を表した字です。

よく口を用いて話をすれば、まわりの人の理解と協力を得て、物事がうまく行きとどくものです。それで、「口を用いる」という意味の「周」で、「行きとどく」という意味を表しました。例周到、周密。

「広く行きわたる」という意味にも使います。例周知。また、「まわりに行きわたる」ことから、「まわり」という意味に使われます。例周囲、円周。

使い方

▽用意を周到にしてあげば、いざという時、困ることがありません。

▽塩分の取りすぎが体に良くないことは、周知の事実です。

熟語例

▽周到(よく行きとどいていること。)

▽周密(こまかいところまで、よく行きとどいていて、不完全でないこと。「周密な実験を繰り返して得た結果だから、間違いなからう」などというふうに、つかいます。)

▽周知(広く人に知られていること。)

▽周囲(ものの周り。また、周りにあるものや、周りにいる人。「周囲の理解を得る」などというふうに、つかいます。)

▽円周(円の周り。「円周率」といえば、円の周りの長さの、直径に対する割合です。円周は直径の約三・一四倍ですから、円周率は約三・一四です。)